

高崎市教育委員会定例会会議録

開 会 年 月 日

令和5年10月19日（木） 午後2時

閉 会 年 月 日

令和5年10月19日（木） 午後2時23分

会 議 の 場 所

教育委員会室

教 育 長 小 林 良 江

教育長職務
代 理 者 神 宮 嘉 一

委 員 田 野 内 明 美

委 員 塩 野 有 希

委 員 新 井 英 夫

事 務 局（説明員）

教育部長 青 柳 正 典

公民館担当部長 川 嶋 昭 人

学校教育担当部長 大 澤 好 則

教育総務課長 小 池 郁 生

社会教育課長 茂 原 久 美 子

文化財保護課長 角 田 真 也

中央公民館長 山 口 順 子

中央図書館次長 齊 藤 寛 方

教職員課長 岡 田 朝 夫

学校教育課長 依 田 哲 夫

健康教育課長 長 岡 誠

教育センター所長 清 水 さとみ

高崎経済大学附属高等学校事務長 新 井 史 代

書記 教育総務課 宮 澤 信 宏

10月19日	会議に附した事件
報告連絡事項	令和5年度西部ブロック公民館研究集会兼高崎市公民館研究集会の開催について

高崎市教育委員会 10月定例会会議録

教育長（小林良江）

皆様には大変お忙しいところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。令和5年10月1日付けで、高崎市教育委員会教育長に就任いたしました小林良江でございます。重責に身の引き締まる思いでございますが、本市の教育行政をより一層充実・発展させるため、全力を尽くしてまいりたいと思います。また、飯野前教育長が定められたスローガン「すべては子どもたちのために」、こちらを大事にしながら、重点施策である学力の向上の取組や、いじめ対策の強化なども着実に推進してまいりたいと思います。この教育委員会会議は、教育長が主宰することになっておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

教育長（小林良江）

さて、10月から当教育委員会に新たな委員をお迎えしましたのでご紹介いたします。10月1日付けで委員にご就任されました新井英夫委員です。それでは新井委員からご挨拶をいただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

委員（新井英夫）

このたび、教育委員に任じられました新井英夫と申します。下中居町で小児科医院を開業して約20年になります。昭和58年に新潟大学を卒業しまして、群馬大学の小児科医局に入り、小児の腎臓に10年くらい関わっていました。その後、藤岡、富岡や桐生などの病院をまわりまして、22年前に開業して今日に至ります。医師会では、理事を約7年務めさせていただき、学校保健や救急医療、母子保健などをやらせていただきました。コロナが始まったときに、ちょうど予防接種担当で右も左もわからず、医師会や市の保健所の皆様のご協力をいただきまして何とか乗り切ることができました。本当に感謝しております。このたび、教育委員に命じられまして、身の引き締まる思いです。何をしたいか全くわからないのですが、自分の立場で何がお手伝いできるか考え、皆様と協力しながらやっていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

教育長（小林良江）

ありがとうございました。

続きまして、新たな委員をお迎えしましたので、事務局から自己紹介をお願いします。

（事務局 自己紹介）

教育長（小林良江）

それでは、これより高崎市教育委員会10月定例会を開会いたします。

議事日程に従いまして、議事を進めさせていただきます。

日程第1 会期の決定といたしまして、会期は、本日1日といたします。

日程第2 会議録署名人の指名といたしまして、会議録署名人に、田野内委員と塩野委員を指名させていただきます。よろしく願いいたします。

日程第3 会議録の承認といたしまして、前回の会議録を事前に送付させていただきましたが、内容について何かございますか。

（「なし」との声あり。）

教育長（小林良江）

「なし」とのお声をいただきましたので、ご異議なしと認め、原案のとおり承認させていただきます。

教育長（小林良江）

日程第4ですが、教育長報告という事で、10月1日付けで神宮委員を教育長職務代理人として指名いたしましたので、高崎市教育委員会会議規則第5条第1項の規定によって、ここに報告させていただきます。それでは、神宮教育長職務代理人からご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

教育長職務代理人（神宮嘉一）

皆さん、改めましてお世話になります。教育長職務代理人ということで、役職名が変わったのですが、私は私ですので、私らしく1年間務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

教育長（小林良江）

ありがとうございました。

教育長（小林良江）

それでは、本日の議事に入ります。

報告連絡事項といたしまして、「令和5年度西部ブロック公民館研究集会兼高崎市公民館研究集会の開催について」の説明をお願いいたします。

（山口 中央公民館長 説明）

教育長（小林良江）

ありがとうございました。

説明が終わりましたが、ご質問ありますでしょうか。

（「なし」との声あり。）

教育長（小林良江）

よろしいでしょうか。

以上で予定していた議事の審査は終了いたしました。事務局からその他、報告等がありますか。

（「特になし」との声あり。）

教育長（小林良江）

次に、委員の皆様からこの際、ご意見、ご質問等ありますでしょうか。

教育長職務代理人（神宮嘉一）

教育委員に就任して3年経ちましたが、就任した当初も今も色々と戸惑うところがあります。初めて来たときのことを思い返してみると、皆様方が出迎えてくれて、さあ始まるぞと粛々と議事が進行していきます。最近ですと、重田委員が積極的に発言され

ていました。私もそれにあやかって話をさせていただくことがあります。それと、事務局から事前に議案が送られてくるのですが、その内容を見ても少し戸惑います。教育長も新しくなられて、今までは十何年ということ、その結果は出ていて、今までの形式でやっていたと思うのですが、こういう時間が内容のあるものになれば良いと常々思っています。そういう中で、あと1年間ですけれども、その手始めとして次回を楽しみにしております。

教育長（小林良江）

何かご提案がありましたら遠慮なくお願いします。

教育長（小林良江）

他の委員の皆様、いかがでしょうか。ご質問等ありますでしょうか。

委員（田野内明美）

来月、やるベンチャーの時期ということで、私の会社でも4校の生徒さんに来てもらって体験していただくのをとても楽しみにしています。コロナの時はなかなかできなかったと思うのですが、コロナが少し落ち着いてきた頃から受け入れてくれる企業が少しずつ増えてきたと伺いました。それでも生徒が行きたいところに行けないという話でしたが、今年はいかがでしたでしょうか。

学校教育課長（依田哲夫）

現在、順調にやるベンチャーウィークが進んでおります。昨年度までは、医療系や飲食店関係が遠慮されるところが多かったのですが、今年度は、学校から報告が上がってくると、学校、医療、飲食店、農業関係など、全てのところで受け入れをいただいております。ただ、お店の休みが火・水曜日ということもあり、受け入れが3日で終わるところもありますが、以前のように、子どもたちが希望するところに行けるようにはなってきております。

委員（田野内明美）

ありがとうございます。良かったです。

教育長（小林良江）

コロナが落ち着いて、以前に戻ったということでしょうか。

教育長（小林良江）

他にいかがでしょうか。

委員（塩野有希）

先週、中学3年の娘の学校で合唱コンクールがありました。RADWIMPSというバンドの「正解」という曲があり、その歌がとても心に響きました。文部科学省が10月5日に出した統計で、不登校・いじめの件数が令和になってからグラフで言うと急上昇しているのを見ました。また、いじめの認知件数が増えているというのは、事前にご説明いただいたのですが、いじめの定義というものが年々変わっていて、今はか

なり広くいじめというものを定義しているもので、そういった影響も認知件数が増えていることに影響しているのかもしれない。不登校に関しては、やはりコロナというのが大きな影響を与えたのかなと思います。最近、気になったのがテレビのCMで、オンラインやネットでの学校というものがあり、昔より不登校になっても学べる場というものがたくさん用意されていたり、不登校というものが昔だったら外れてしまったりという印象があったと思うのですが、今は多様性というのが言われるようになって「学校に行かなくても学べる」というのは、それはそれで素晴らしい環境が整いつつあります。先程の合唱の歌詞が、「僕たちが本当に知りたかったのは、1番大切な仲間との仲直りの仕方、大好きなあの子の振り向かせ方、それから、傷ついた友の励まし方だ」というものなのですね。オンラインとか学校に行かなくても、学習面では様々なことがフォローできる時代になっていますが、やはり現場で仲間と過ごす時間というのがすごく大事なのだなというのを、その合唱コンクールを通して感じました。ですので、高崎市はこれだけのいじめ防止ですとか、学習面のこととかも先進的に取り組んでいますので、現場の先生や教育委員会の方、皆様に引き続き子どもたちのために頑張っていただきたいと思いました。

教育長（小林良江）

ありがとうございました。励ましのお言葉です。
学校教育課長、何かございますか。

学校教育課長（依田哲夫）

色々ご理解いただきありがとうございます。合唱コンクールにつきましては、各中学校では今年はコロナ前のように子どもたちがステージに立って歌う、そういった形で行っております。それによって子どもたちの一致団結する気持ち、それを高めていく。今までなかなか無かったのですが、そういった1つの行事を成功させることで、クラスの団結、それと友達との協力、そのあたりを得られると思っております。CMで出てきたのは、いわゆるフリースクールですが、学校教育課でも子どもの居場所として、フリースクールを認めていこうということから、フリースクールに通う子どもたちを積極的に出席扱いにしております。今までは学校に来させるのが不登校対策でしたが、今は社会に繋がるための教育、それはどこでやってもということで、かなり幅広くなっております。そのあたりを教育委員会としても認めつつ、その受け皿としては、教育センターがやっております教育支援センターで受け入れをする。そちらも子どもの数が増えてきているというのがありますが、そういった形で不登校の受け入れと認め、そのあたりは周知しながらやっているところです。やはり全国と同様に数は増えてきているのが現状です。理由として、保護者が「学校に行かなくても良い」という考えをお持ちになりつつあることや、学校生活が制限されたコロナにより、子どもたちの立ち上がる気力を無くしてしまったりとか、前に進む力を少し奪ってしまったりというのが原因という話がありますが、本市でも同じようなことがあります。ただ、まだはっきりわからずに不登校になっている例もありますので、学校では担任を中心に家庭訪問などの繰り返し、あと家の中に居る子どもにはタブレットを使って先生が呼びかけるなど、そういった方法を使って、子どもたちとの繋がりは今でも続けているところでございます。

委員（塩野有希）

ありがとうございます。

教育長（小林良江）

これからも継続して取り組んでいただきたいと思います。

教育支援センターの話が出ましたが、教育センター所長いかがですか。

教育センター所長（清水さとみ）

令和3年に国から通知がありまして、適応指導教室が教育支援センターへ名称変更になりました。本市でも、それに続きまして、教育支援センターに名称を変更しました。保護者の方や学校への理解も深まってまいりまして、ここ数年で、教育支援センターを利用している児童生徒数が非常に増えてきています。また、不登校をカウントしている児童生徒に対する割合も増えていまして、これまで家庭に引きこもっていた児童生徒たちが、教育支援センターという場所を利用するということもみられています。まだ3年程度なので、これからの動向をしっかりとみていきます。先ほどのフリースクールにつきましては、教育センターの所員が実際にまわって話を聞き、資料をまとめておりますので、各学校・保護者の方への情報提供など、しっかりとさせていただいています。

教育長（小林良江）

これからも、いじめや不登校問題にもしっかりと取り組んでまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

教育長（小林良江）

他にありますでしょうか。

（「なし」との声あり。）

教育長（小林良江）

よろしいでしょうか。ないようですので、以上をもちまして、教育委員会10月定例会を閉会させていただきます。本日は大変ご苦勞様でした。